



PRESENT



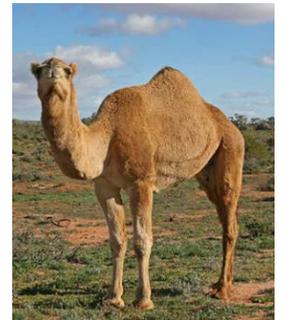
「変化に適應」

4月からみなさんは新しい学年になりますね。小学6年生と中学3年生はそれぞれ中学1年生と高校1年生になり、そのほかの生徒は1つ上の学年に上がります。みなさんはなぜ小学生、中学生、高校生と別れているのか疑問に持ったことはありませんか？僕はあります。特に中学3年生から高校1年生に上がる時は、また先輩ができて気を使わなければいけないのかと思ったこともありました。このように分かれている理由はいくつかあります。その中でも僕が思う一番の理由は環境の変化に適應できる力をつけるためだと考えます。

みなさんはウサギの毛が季節ごとに変わることを知っていますか。冬は白色で夏は茶色になります。これは、冬は雪の色と同化し、夏は土の色と同化することで獲物から見つからないようにするためです。



砂漠にすむラクダは気温の変化に対応するために様々な体の工夫が施されています。まず、背中のコブには脂肪が含まれており、エネルギーが不足すると分解されて使用されます。また、一度に水分を100L以上摂取することができ、それを血液中に蓄えることができます。さらに気候に応じて体温を変化させることで汗が出る量を抑えて、気温の変化にも対応しています。このように自分の体を変化させて、砂漠という厳しい環境の中でも生き延びています。



このように自然界の生物も環境の変化に適應できる生物が生き残ります。進化論の祖であるダーウィンは次のような言葉を残しています。「**最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である**」つまり、変化に適應できる力が生き物の中でも人の社会の中でも大切だということです。ここで学年が上がり先輩になるみなさんは後輩たちにいい背中を魅せられるように頑張ってください。また、次のステップに行き高校生になるみなさんは、新しい環境になじめるように一つ一つのことを頑張ってください。逆に一番下の学年になることで新たに先輩の背中から学べることも多くあると思います。ぜひ、環境の変化に適應できる力を身に付けて、色々なことに柔軟に対応できる大人になってください。